

○ **Macrolide**

erythromycin 1952年 MW 733.9 (EM)

clarithromycin (CAM)

roxithromycin (RXM)

azithromycin (AZM)

呼吸器感染症が第1の適応。

大部分のグラム陰性菌には無効（外膜を通過できない）。髄液移行は良くない。

本来の抗菌作用以外に例えば緑膿菌の菌体外酵素の産生抑制

肝臓で代謝を受け、胆汁排泄

- [Mycoplasma pneumoniae
- [Legionella pneumophila
- [Bordetella pertussis
- [Chlamydia trachomatis

}
 }
 }
 }
 } → 第一選択薬
 副作用が
 少ない

Clarithromycin (CAM) 200 mg 経口投与

血中 : 3.13 $\mu\text{g}/\text{ml}$

喀痰 : 2.9 μg/ml

白血球細胞內外比：14.5

気道や白血球に移行しやすい。 — 低毒性（乳幼児、妊婦も投与可能。）

Mycobacterium avium complex

Helicobacter pylori

多剤併用
単剤では使わない。

難治性慢性気道感染症

びまん性汎細気管支炎 (diffuse panbronchiolitis)

erythromycin 600 mg/日：6～24 ヶ月投与

起因

〔作用機序〕

50S リボソームに結合。

ペプチジル -tRNA が A 部位から P 部位に translocation するのを阻害。

〔副作用〕

【副作用】 erythromycin
が有名

消化器症状。テルフェナジン（抗ヒスタミン薬）との併用は心停止（急速な静注）の可能性あり。

→ 下痢

注射剤と投与

Torsades de pointes

恶性，不整脉

〔薬剤耐性〕

erythromycin resistance methylase による 50S リボソームの 23S rRNA の特定アデニンのメチル化。

23S rRNA の 2063 番目または 2064 番目 (A → G or C)

2617 番目

$$(C \rightarrow G \text{ or } A)$$

→ mutation.